

令和5年第8回大竹市教育委員会

- 1 開催日時 令和5年8月18日（金）8時45分開始
- 2 会場 大竹市役所3階大会議室
- 3 出席及び欠席委員
- | | | |
|-----|------|----|
| 教育長 | 小西啓二 | 出席 |
| 1番 | 池田良枝 | 出席 |
| 2番 | 中田美穂 | 出席 |
| 3番 | 小城和之 | 出席 |
| 4番 | 市川洋 | 出席 |
- 4 出席職員
- | | |
|--------|------|
| 総務学事課長 | 貞盛倫子 |
| 総務学事課 | 重安千陽 |
| | 丸茂宣潔 |
| | 横峰路子 |
| | 岡村篤子 |
| | 大庭史善 |
| 生涯学習課長 | 川村恭彦 |

.....

【開会時刻 8時45分】

小西教育長 定足数に達していますので、これより令和5年第8回大竹市教育委員会会議を開会します。

はじめに、議事録署名委員を指名します。議事録署名委員は、大竹市教育委員会会議規則第15条第2項の規定により、池田委員を指名します。

これより本日の日程に入ります。日程第1「会期の決定について」を8月18日一日限りとします。これに異議ありませんか。

委員一同 異議なし。

小西教育長 異議なしと認めます。よって会期は本日一日間と決定しました。

議案第18号 令和6年度大竹市使用小学校用教科用図書の採択について

小西教育長 日程第2「議案第18号 令和6年度大竹市使用小学校用教科用図書の採択について」を議題とします。なお、説明員として、令和6年度大竹市教科用図書選定委員会会長真鍋和聰小方小学校・小方中学校校長に出席していただいています。事務局から説明を求めます。

事務局 令和6年度から小学校で使用する教科用図書が変更となります。教科書は義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令第14条により、使用する年度の前年度の8月31日までに採択する事とされているため、文部科学省発行の「小学校用教科書目録（令和6年度使用）」に掲載されている教科書の中から令和6年度以降に使用する教科書を採択する必要があります。

本年、第5回定例教育委員会において議決された「令和6年度大竹市使用教科用図書の採択基本方針」等に基づき、採択事務の過程を経て、大竹市教科用図書選定委員会が推薦する発行者とその理由、調査研究による全発行者の特徴を記載した「大竹市立小学校用教科用図書採択のための調査研究について（答申）」が提出されました。この答申書には、選定委員会が推薦する発行者とその理由、調査研究による全発行者の特徴が記載されています。本日は、この答申書について、1種目ずつ、選定委員会の会長であります、小方学園の真鍋校長から説明していただいたのち、この会議で十分審議し、理由を明確にした上で採択を行うものです。なお、答申では種目毎に発行者を推薦していますが、議案には採択の対象として全ての教科書及び発行者を掲載しています。ただし、発行者のうち一般社団法人信州教育出版社については、理科と生活の教科書が検定に合格していますが、見本本の提供が得られなかったため、掲載していませんのでご承知ください。あくまで採択は、採択権者である教育委員会が十分な審議をした上で行う事となりますので、よろしく願いいたします。

また、追加で配布させていただいています「展示会閲覧者アンケート」の写しにつきましては、見本本を6月に総合市民会館で展示した際にお寄せいただいたご意見ですので、ご一読いただき、本日の審議の参考にしてください。なお、当該資料につきましては、審議終了後回収させていただきますので、ご了承ください。

小西教育長 本議案の審議にあたり、お配りしている、「大竹市立小学校用教科用図書採択のための調査研究について（答申）」をご覧ください。選定委員会会長から答申について説明していただきます。種目ごとに審議するため、まずは、「国語」についてお願いします。

真鍋会長 国語は、東書を推薦します。まず、教材の初めのページに「学習の流れ（見通す、取り組む、ふり返る）」が示されており、学習の見通しを持つことが出来る」というところ、同ページの二次元コードで関連する既習の学習内容も示されており、既習事項の活用を意識できるようになっています。第4学年の上の教科書には、まず、全体的な流れとして、導入のページでつけたいことばの力という項目がどの単元にもあります。学習の流れとして見通す、取り組む、ふり返るという学習がどの単元にもついています。さらに、思い出そうのところにも二次元コードがついており、過去の学習内容が出てきます。他の単元とのつながりを意識して学習する事が出来ます。こういったところが児童にとって分かりやすいと思います。そして、学習指導要領における「第3学年及び第4学年の内容の第3学年で学習するローマ字の読み書き」に関して、東書は、第3学年で2回、第4学年で1回扱われています。タブレット端末の活用として、1人1台貸出しとして配備されていますが、キーボードを入力するという事を学習の中でしていますので、第3、4学年で複数回学習出来るようになっていくことは非常に良いことだと思います。第3学年だけではなく、第4学年の上にも、さらに二次元コードでキーボードで入力してみようというものを使ってローマ字を学習することが出来るようになっていきます。次に、第3

学年以上で紙のノートの作り方とともに、デジタルノートの作り方も掲載されており、二次元コードを読み取り、図や表を使って学習が出来るようになっていきます。第1学年の促音、長音、拗音の学習では、MIM、いわゆる多層指導モデルが取り入れられています。音と文字の関係を体感的に捉えるようにするなど、入門期のひらがなの指導が丁寧になされています。例えば、第1学年の上では、あいうえおと書いてあるところに拍手のマークがついています。手を叩き体で覚えながら学習するという一方で、非常に配慮があり、入門編の指導がしっかりと丁寧にしています。最後に、物語文では、「なぜ」の問いで事実をもとに解釈させる発問、登場人物の変化を問う発問等が、東書には多くあり、読解力を培う発問も示されています。どの教科書にも教材文の後に、人物について考えたことを伝え合おうというように「物語文の読み方」を物語文を通して学習することになるのですが、その前に問題文をある程度解釈させるため、他者の教科書にはあまりないなぜという問いがあります。例えば、「大造じいさんと雁」では、「大造じいさんは飛び去って行く雁を晴れ晴れとした顔つきで見守っていたのはなぜでしょう。」という問いがあります。「なぜ」と聞かれたら「～だから～です。」というような最低限の文章で表現しないといけけないので、表現力を培うような問いであり最終的には人物像について考えさせていくという物語文の読み方まで至っていく作りになっています。他の教科書は、「この単元の魅力はどのようなところにあるかあなたの印象に残った場面・表現をもとに観点を一つ選び文にまとめなさい。」というような、大きなくりの問いが多いので、大きな問いだけでなく、具体的な問いを併用している点が東書の特徴ではないかなと考えました。国語については以上です。

小西教育長 選定委員会から、説明をいただきました。まず、委員の皆様から、質問を受けたいと思います。質疑はありませんか。

池田委員 最後の部分で読解力を問う発問が他者とは違うという説明でしたが、他にも他者とは違う点があるのでしょうか。

真鍋会長 読解力についての部分が主なところなのですが、「なぜ」の問いは、他にも「注文の多い料理店」にもあります。説明文の単元では、読んだ後に書く単元がある場合もあります。他にも、長所、短所などあるのですが総合的に考えての推薦となります。

市川委員 広島県では平成27年度から、「学びの変革アクションプラン」に基づき、主体的な学びを目指していくとなっているのですが、その点でいくと、主体的に学習に取り組んでいくことと、言語活動の充実という二つの面がすごく大切になってくると思います。先程の説明にも十分あったのですが、この二つの観点から工夫が見られるというところで、他に補足があれば教えてください。

真鍋会長 つけたい言葉の力がはっきり明確に示されているところと、物語文を読む、聞く、話す、書く力を使って、なぜという問いで解釈させるには、言葉を根拠にして考えないといけないこととなります。問い、発問の性格が主体的な学習に関わってくると思いますので、問いが充実している東書が適切なのではないかなと考えました。

小西教育長 第3、4学年のローマ字の学習で、キーボード入力のトレーニングになると思います。時数はどれぐらいになりますか。

真鍋会長 まだ、指導書が手元にないのですが、先生方は指導書に基づいて概ねの授業計画を立てます。ローマ字については、1、2時間扱いぐらいではないかと思います。あとは、反復トレーニングが大切なので、5分、10分、時間をとって繰り返しやっていくそういった計画になるのではないかなと思います。

小西教育長 質疑を終結します。選定委員会から東書という事で推薦されています。採択すべき発行者と、その理由について、委員の発言を求めます。

中田委員 今、説明にあったとおり、東書は物語文が始まる前に、すごくインパクトに残る一文を抜き出して書いてあり、最後にも分かりやすい問いがあります。他の教科書を見ると質問が大まかなくくりで、抽象的すぎて、児童がそこから考えていくことが難しい部分もあるのかなとも感じたので、東書が良いなと感じました。

池田委員 私も東書が良いと思っています。どの教科書も言葉の力について、力を置いて構成されているというのは分かったのですが、主体的な学習に関われるような具体的な問いがあるのが東書だなと思いました。もう1点、ローマ字は1年間で取り組む事が多く、つつい忘れてしまう事もあるのですが、第3学年で取扱いがあり、第4学年でも取扱いがあるのは良いことだと思います。タブレットを使っていく中で、キーボードのローマ字打ちがネックになっているところもあったので、段階的にローマ字に取り組んでいけるような作りになっているということは、児童たちにとってすごく良いことだと思ったので、東書が良いのではないかなと思います。

小城委員 東書のものを見て、タブレットをしっかりと使った学習が多くあるなと思いました。数年前から進めているタブレットを使った授業が効果的に行えるのではないかなと思い、東書が良いなと思いました。

市川委員 指導者側の観点から見ると、それぞれ主体的な学びの中で学習の手引きがどの教科書会社もずいぶん改良されて工夫されているなと思いました。どの指導者も扱いやすい教科書というところで見ると、国語が不得意な先生も扱いやすい、東書が良いと思いました。

小西教育長 令和6年度大竹市使用小学校用教科用図書について、種目ごとに採択すべき発行者と理由について確認します。国語について、発行者は「東書」、理由は「主体的な学びを促し、子ども達が学んでいくのに適切な教科書であること」や、「指導する側からも指導しやすいのではないか」、「これから子ども達がより学習用端末機の活用が広がってくるため、2学年に渡ってのローマ字入力の指導が組まれていることは分かりやすい」という意見が出ました。

それでは、次に書写をお願いします。

真鍋会長 書写は、東書を推薦します。毛筆では、筆の中に顔が描かれているイラストによって、穂先の向きを意識して書くことができるように工夫されています。毛筆の点画の種類が第3～6学年の巻頭に掲載されており、毛筆が始まってから何年間も確認することが出来ます。他のものにも擬態語で書き方は示されているのですが、東書については、「とん」「すう」「ぴたっ」という共

通した擬態語で書き方が示され、毛筆の運筆が丁寧に指導されています。そして、第1、2学年では、多様性という観点で、左利きの鉛筆の持ち方がほぼ実物大ぐらいの大きな写真で示されています。そして、毛筆の用具の置き方、準備、片付けが見開き2ページで第3～6学年の巻頭に示されており、見開きのページを見れば、準備と片付けが分かるような工夫がされています。次に、「見つけよう」「たしかめよう」「生かそう」「ふり返ろう」のマークで学習活動の流れがどの学年も明確に示されています。「見つけよう」のところで、特に課題のある書き方等を見つけようという学習で、今後の学習の流れが非常に明確に示されていて分かりやすいです。あと、次の学習活動に入りやすい工夫があり、第3学年については、横画の始筆はこのように書きましょう、終筆はこのように書きましょうというような「書写のかぎ」がまとめられています。巻末の「学習した漢字」の全てに読み仮名が付いていますが、これは、東書のみ読み仮名がついていました。こういったきめ細かいところも良いかなと思いました。最後に、第3学年の「点画の名前」で「横、たて、点、おれ、はらい、曲がり、反り」の書き方が毛筆・硬筆の両方で示してあり、書写の時間全体で活用できるといったところが東書の特徴であると考えました。

小西教育長 書写について、委員の皆様から質問を受けたいと思います。質疑はありませんか。

市川委員 書写というと、国語と関連性がすごく深いのですが、教科書会社が一緒であるメリットまた、デメリットもあれば教えてください。

真鍋会長 デメリットについては特に無かったのですが、メリットとして、国語に載っている教材文を書写で学習するということになります。学習したことのある文章を改めてここで書くという事は、子どもにとっては学習に入りやすいというメリットがあるのではないかなと思います。

小西教育長 質疑を終結します。選定委員会から東書ということで推薦されています。採択すべき発行者と、その理由について、委員の発言を求めます。

市川委員 先程の質問と関連があるのですが、過去に国語の教科書会社と書写の教科書会社が異なった事例があり、実際に指導にあたって、新出漢字等ではまだ習っていない漢字が書写に出てきたというデメリットにつながりました。そういった点を考えていくと国語と書写は一体化していくということで、同じ会社の方がメリットが大きいのではないかなと思います。

中田委員 私も「書き方」が各学年に説明してあるのは分かりやすいと思いました。私もそういった総合的な面では東書が良いなと思いました。ただ、少し残念だなと思ったのが、他者には第6学年の最後に手紙の書き方があったのですが、東書にだけ手紙の書き方がありませんでした。今、書くということから子ども達が離れつつあるので、国語の授業で手紙の授業があるのかもしれませんが、書写の授業がなかったのが残念だなと思いました。ただ、全体的に見ると東書が良いのではないかなと思いました。

池田委員 私も東書が良いと思います。穂先の向きをすごく丁寧に取り扱い、毛筆の中ではやはり穂先の向きを意識して書くというのは大切なことだと思います。書き方の、「とん」「すう」「ぴたっ」は、低学年から取り扱い、第6学年まで出てくる言葉なので、丁寧に扱うことは、すごく大切な事だなと思います。それと、準備と片付けが見開きで書かれていることも良いと思います。他の出版

社についても片付けは取り扱われていたのですが、準備も片付けもこの見開きのページを見てできるというところは、とても良いと思います。

小西教育長 令和6年度大竹市使用小学校用教科用図書について、種目ごとに採択すべき発行者と理由について確認します。書写について、発行者は「東書」、理由は「非常に指導内容の中身が丁寧である」ということや、「国語科と書写との関連が非常に大きく、児童にとっては非常に学習しやすい中身になってくるのではないのか」という意見が出ました。ただし、手紙の書き方が無いということについては、教育委員会から各学校に指導をしながら、学習内容を考えて行きたいと思えます。

次に社会をお願いします。

真鍋会長 社会は、東書を推薦します。単元の初めの「つかむ」(つかむ、調べる、まとめるサイクル)で、学習問題作りのために事実としての資料などが複数掲載されており、問いが児童から生まれるように工夫されています。そして、第5学年で「上・下」、第6学年で「政治・国際編」と「歴史編」に分冊され、持ち運びやすく扱いやすくなっています。「なぜ」の問いで推測し、資料などで調べて検証する科学的探究の学習方法を取り入れており、いわゆる社会科学として、「なぜ」の問いを調べて推測するといった学習方法が取り入れやすくなっています。第5学年以下については、他者も「なぜ」の問いがいくつかありますが、東書の歴史分野の「なぜ」の問いはすごく考えられています。「学びのポイント」というところがあり、例えば、「なぜ、聖武天皇は仏教の力を使って国を治めようとしたのか」や「聖武天皇はどのようにこんな大きな大仏を作れる力を持っていたのか」等、いっぱい「なぜ」の問いがあります。「なぜ」ではないのですが、これはすごいなという問いがあり、歴史編の「明治・大正時代はどんな時代だったか」というものです。これまで学習してきた知識を総動員して、明治・大正時代は近代化に向けて頑張った時代なんだ、一言でいうと、そういった知識を導き出すようなものすごい問いだと思いました。次に産業学習では、利潤追求の視点で社会の仕組みを学習させるように問いを工夫した学習過程となっています。社会的な見方、考え方というところ、社会の法則的な知識であるとかそういったことを習得させないといけないのですが、例えば、第3学年でスーパーマーケットの学習があり、ここでは、たくさんのお客さんに来てもらうためにどのような工夫をしているかを学びますが、ややもすると、道徳的な社会というか、私たちのためにお店の人たちは頑張っている。農家の人は頑張っている。というような昔の教科書に見られたようなものではなく、利潤を視点に社会の仕組みを暴くというような問いがあります。他にも、第5学年の産業学習で、自動車学習の後にCMにまとめるという学習があり、その最後では、高い品質と最新の技術に納得したお客さんが車を買う事を決めるところまで書かれています。もちろん地域貢献にしても産業学習にしてもありますが、そういったところが押さえられていました。スーパーマーケットについては、明らかにここが東書が分かりやすいと感じました。第3学年のスーパーマーケットの店内の様子を図で、ゴシック体ではっきりと売るものの名称が示され、売るものの絵もはっきりと描かれています。児童目線での丁寧な資料提示がされており、学習課題を生み出しやすいと感じました。学習問題が示され、それを解決するための下位の問いが構造的に示されており、例えば、第5学年の「暖かい都市の暮らし沖縄県」という単位では、沖縄県という典型的に暖かい地方で起こる事例として、日本の地域は、気候や地形に合わせて生活していることを学ぶ単元で「暖かい気候をどのように暮らし

や産業に生かしているのでしょうか」という最初の問題については、産業ではどうか、観光ではどうか、文化ではどうかというふうに構造的に示されています。政治国際編の単元末のまとめでは、単元の最初に学んだことを再確認するようになっていきます。必ずまとめの活動で、言葉を生かそうという問いがあり、キーワードが並べられて、それを使ってまとめるようになっていきます。まとめ方は新聞にまとめたり、図にまとめたり、文章にまとめたり、いろいろなまとめ方の方法が示されており、キーワードを使うことで、必ず学習内容を確認でき、非常に最後のまとめまで児童が学習しやすいようになっていくと考えます。

小西教育長 社会について、委員の皆様から質問を受けたいと思います。質疑はありませんか。

私から質問します。8月6日の原爆などその辺りの記述は東書ではどのように扱われていますか。

真鍋会長 歴史編には、原爆ドームのページがあります。広島県広島市を標題とした単元があり、社会や人々の生活にどのような影響を与えたのかというところから学習が始まっています。その後、長い戦争につながっていきます。

小城委員 東書の第5学年は、上、下と分かれていて順番が分かりやすいと思うのですが、第6学年は、政治国際編と歴史編に分かれています。今までの社会のイメージだと歴史から学習して、政治国際へつながっていくと思うのですが、他者の教科書だと先に政治となっています。順番は、どのように進んでいくものなのでしょうか。

真鍋会長 他者と同じように進めています。現在の教科書の進め方もそのように進めていて、どっちを先にしないといけないというように示されている訳ではないのですが、現在の学習指導要領が、先に政治国際編をするように示されているので、そのような進め方をするようになっていきます。

小西教育長 質疑を終結します。選定委員会から東書ということで推薦されています。採択すべき発行者と、その理由について、委員の発言を求めます。

市川委員 各発行者の内容を見ていくと、東書が良いと思いました。主に地元の石油工場、大竹市と岩国市の石油コンビナートが示されています。やはり地元の産業が教科書に載っていることが良いのではないかと思います。特に最後のところには、「岩国大竹コンビナートは歴史のある石油コンビナートです。」とあります。これは選定委員会の理由の中にはなかったのですが、地元の企業が教科書に載っているのは大切なことだし、その次のページに行くとお好み焼きソース「おたふく」の工場もありました。「おたふく」は社会見学で大竹市から行ける場所ですし、地元の産業が教科書に載っているため、東書が良いのではないかなと思いました。他者は、埼玉県などの違う県のことが取り上げられていることもあり、大竹市岩国市の石油コンビナートと「おたふく」が載っている東書が良いのではないかなと思いました。加えて原爆ドームのところでも見開きになっていて写真がすごく鮮明であるというところ、「広島の誓い」というところで再度見開きで広島の学習をしていくところなど、東書は平和学習についてずいぶん工夫がされているなと思いました。

中田委員 私も東書が良いなと思いました。先程、市川委員がおっしゃったように政治経済で改めて見開きで広島の事が取り上げられていますし、歴史は中学校でまた同じ内容をより深くなぞっていくため、ボリューム的にも東書の教科書で学習するのが良いのではないかなと思いました。

小城委員 第5、6学年といたら、学ぶ内容も増えてきて学習の進度もシビアになっ

てくるのではないかと思うのですが、教科書が分かれているため、学習意欲が湧くのではないかなと思いました。また、先程もありましたが、写真、イラストについても身近なものがあったので、東書が良いと思いました。

池田委員 私も東書が良いと思いました。先程、たくさんの委員さんから出てきたことももちろんなのですが、社会は資料がものすごく多い教科になりますので、イラストや写真がとてもシンプルにまとめられていて良いなと思います。

小西教育長 令和6年度大竹市使用小学校用教科用図書について、種目ごとに採択すべき発行者と理由について確認します。社会について、発行者は「東書」、理由は「非常に資料等の中身が見やすい、きれいで学習課題を生み出しやすい資料提示がされている」ということや、「大竹市の地元産業を扱っている」という意見が出ました。

次に地図をお願いします。

真鍋会長 地図は、帝国を推薦します。まず、「世界と地球儀」では、地球儀の使い方の写真と文字だけの説明ではなく、見開きの左上のタイトルの横に二次元コードがあり、動画で地球儀の使い方や方位の調べ方などが具体的に理解できるような工夫がありました。二つ目ですが、第3学年から使用しやすいように、「地図の世界へようこそ」「地図の約束」等が、大きな文字や大きな図で分かりやすく作られているというような工夫があります。そして、日本の地方別地図ですが、広く見渡す地図として、入門期に分かりやすく、途中から詳しい地図が表示されています。したがって、学習内容の必要に応じてどちらかに使い分けることができます。それから、他者に比べて色合いが派手ではなく見やすいという印象があります。都道府県の区分の線や海の色等、目的に応じて色使いが変えてあります。そして、一番最後の方の索引というページがありますが、これも都道府県は赤太字、県庁所在地は赤字、歴史は青字などと色分けをして、索引で非常に分かりやすくなっています。資料に、雨温図という降水量と気温の変化を表す図があります。これについては、降水量の一番多い月は色の濃い棒グラフ、逆に一番少ない月は薄い色の棒です。気温が最高と最低の月については数値でも示してあり、そういった細かい配慮が帝国にはあります。他者にはありません。他にもいろいろ特徴はありますが、理由としてはその6点を挙げています。

小西教育長 地図について、委員の皆様から質問を受けたいと思います。質疑はありませんか。

市川委員 先程、国語と書写については、関連性のある面でいけば、発行者が一緒の方がふさわしいということでしたが、今回、地図は帝国ということで、社会との関連性の面では話し合いが持たれたのでしょうか。メリット、デメリットがその中で話し合いが出てきたのであれば、どういうものが出てきたのか教えて欲しいです。

真鍋会長 特にこの教科書の関連性についての話し合いは選定委員会では出ていません。関連があるかどうかということも考えていませんが、単純に2者だったのでそれを比べて長所が多いのは、帝国ということでした。

小西教育長 先程、九州地方で二つの地図があると説明されましたが、これは全国すべての地方でその辺りを網羅されているのでしょうか。

真鍋会長 九州地方から他の地方まですべてです。

小西教育長 分かりました。質疑を終結します。選定委員会から帝国という事で推薦され

ています。採択すべき発行者と、その理由について、委員の発言を求めます。

市川委員 帝国は、全国で8割以上の小学校で採択されているという伝統のある発行者ですが、これからの指導の中で、東書はとても力を入れているのではないかと思います。東書は、すごく鮮明で、何よりも、吉和という地名が地図の中に入っています。帝国の方には吉和という地名がないというのはちょっと寂しいなと思いました。そして、今後、検討していく中で、東書の資料の方が教科書と関連している部分があるのではないかと思います。例えば、世界の山や川など、こちらの方が鮮明に載っていると思います。今後の研究材料として、2者を比べていくというのが指導者側の方であれば、より社会が面白いものになっていくのかなと思いました。

小西教育長 発行者については、市川委員の最終的な考えはどうですか。

市川委員 帝国が良いと思います。

小城委員 帝国のツールが学年によって、段階に応じてシンプルな地図から、少しずつ詳しくなっているというのが秀でているところと、詳しくなっても見にくくありません。東書の方は、一つの地図で全部網羅するという感じでしたが、帝国は、進み具合によって、地図を分けて使えるというのは、常に新鮮に学ぶことができ、意欲が湧くのではないかと思います。東京は昔の地図を見て、「あ、江戸だな」など、現在の地図と見比べることができるため、歴史を学ぶ上でも大事なところで良いと思いました。

池田委員 私も帝国が良いと思います。2点あります。1点目は、説明にもあったように、地図が2種類あるということで、導入段階で使うものと、高学年になってから使う地図というのが2種類設けられているというのは、メリットだなと思います。2点目は、後ろの方の資料も充実していると思いました。歴史の部分もありますし、産業についても、丁寧な資料がつけられていると思います。

中田委員 私も帝国が良いと思います。より詳しく学習していく中で、高低差が分かりやすい色使いだと思います。そして、第3学年から使うにあたり、表紙も頑丈であり、4年間ずっと使い続けるにあたって、耐久性があるのかなと思いました。

小西教育長 令和6年度大竹市使用小学校用教科用図書について、種目ごとに採択すべき発行者と理由について確認します。地図について、発行者は「帝国」、理由は「地図が2種類用意してあり、学年ごとに常に主体的に学べる工夫がされている内容となっている」という意見が出ました。

次に、算数をお願いします。

真鍋会長 算数は、啓林館を推薦します。まず、数学的な見方・考え方の育成を重視したつくりとなっていて、マーカーで手がかりが示してあります。例えば第6学年の場合、単元の前の方の下の方に、ハルというキャラクターが「二つの面積を比べやすいように形を変えて考えているね。」と言っています。こういったキャラクターの言葉の中にマーカーで線を引いて、ここはポイント、パーソナルルール、法則性というようなことをきちんと示してあるところが分かりやすいと思います。次に、関係図の活用が児童の思考を助けています。例えば、第6学年の分数×分数では、線分図と、関係図があり、さらに二次元コードで図の書き方が分かるような配慮がされています。次に、第1学年の数の構成では、他者は10の塊で表

していますが、啓林館は5の塊で表しています。算数セットというのを第1学年は購入しますが、それらも5の塊の形になっており、算数セットと同様に扱えます。そして、二次元コードがあり、そこには必ず何の二次元コードなのかということが、文字で記載しているので、分かりやすい、使いやすいと考えています。次に、啓林館は、他者と比較して表や図の書き込みスペースが大きいと思います。また、問題解決のためのヒントが詳し過ぎず、教員の裁量に任せられる点が多く、他者はヒントが多いという印象を受けました。次に、事例及び図が、児童が思考しやすいものが示してある。例えば、第6学年の分数÷分数です。ここで比較をしてみると、分数÷分数の計算の仕方を最終的には教える。その法則性を見つけて使わせるという単元ですが、その事例が、まずは $3/5 \div 1/3$ から入っている。計算の仕方の説明及び計算の仕方の図が複雑でなく分かりやすく示されています。その次のページを見ると、半分から下の方で、図で $1/3$ でシートで塗れる面積というのが1平方メートルの中に、 $3/5$ とありますが、その右側に1平方メートル単位で塊で3つ示しています。他の教科書であれば、例えば、 $2/5 \div 3/4$ というのが一番多かったのですが、計算の仕方などが非常に複雑です。また、図が $3/4$ デシリットルが1デシリットルになるために横に $1/4$ だけ少し付け加えるような分かりづらいもので、図も複雑です。あとは、ある発行者は $5/8 \div 1/3$ というところで、 $5/8$ を分割していくと $1/8$ のものが多くなって、15個並んでいるというあたりが分かりづらいです。やはり、事例として、 $3/5 \div 1/3$ を出して、さらに図としての説明も非常にややこしい、分かりにくい単元なのですが、分かりやすく示しているという工夫があります。その他、事例として第4学年の2桁の割り算の筆算というのがありますが、そこで他者と比べたときに、啓林館の方は $96 \div 32$ という事例を出しています。96は90と見なさいよ。32は30と見て、見当をつけて商を立てましょうという流れになっています。他者は、例えば $63 \div 21$ や、 $84 \div 21$ 、 $65 \div 21$ 、 $84 \div 21$ 、 $85 \div 21$ 、というふうに分る数は全部21で大体それは20と一緒だな。という発想になると思うのですが32でも30で見ます。そういう意図が感じられるのと、割られる数が啓林館は96だったのに対して、他者は65、84、85という1の位が多くても5までの数を0と見ますが、啓林館は96であっても90と見ましょう。という意図が感じられて、この事例を出すのにすごく考えているという印象を持ちました。次に、スタートブックというのが第1学年にあります。他者も3者ほどあったと思いますが、薄いもので第1学年の最初に入門で使うものがあります。例えば、第1学年の見開き2ページ3ページ、算数の学習の導入期に当たって、写真や、図などで、その後の学習の見通しが持てるようになっています。例えば、啓林館は足し算から入っていくのですが、他者であると、最初から文字が多く「もうすぐ小学生になる友達が集まりました。」などと急に第1学年の最初に文章がたくさん出てきたり、いきなり「どっちが多いですか」という問いがあったり、絵が派手でごちゃごちゃしていたり、数えづらいという印象を持つようなものがあったりと、スタートブックを比べてみると、啓林館が非常に分かりやすいというところがあります。他者もいろいろ工夫

点、長所短所ありますので、迷うところではあったのですが、以上のような理由で総合的に考えて啓林館を推薦します。

小西教育長 算数について、委員の皆様から質問を受けたいと思います。質疑はありませんか。

池田委員 問題解決となるヒントが詳し過ぎず、教員の裁量に任せられる点が多いと書かれているのですが、後ろの方の資料の中のところで若手教員にとっては不親切かもというなかっこ書きがありました。そのことについてはどのように捉えていますか。また、同じ後ろの資料の中の啓林館の低学年の場合、説明が少ない分、教科書の展開が早く、他者の教科書より難しさを感じます。授業で補う必要があると書いてあるのですが、授業がメインであって授業で補うものではないのでしょうか。

真鍋会長 若手教員にとっては不親切かもしれないという意見も実際に調査の中で出たので記載されていますが、そこは自己研修、教材研究、それから校内研修等で力をつけていかなければいけません。逆に、若手以外の教員からすれば、裁量があって、児童観、あるいは指導観、児童の実態に対する考え方とか指導に対する考え方によって、ある程度指導方法を考えていけるといったところがあります。若手教員に対しては、そういったデメリットもあるかもしれません。そして、授業で補う必要が当然出てくるところもあろうかと思えます。先程と同様に、授業を考える、教材研究をする授業を準備する段階で、しっかり考えていかないといけない部分はありますし、逆に先程と同じようなことですが、ベテランあるいは若手教員以外の経験がある教員にとっては授業しやすい。両方あります。どちらがどちらというわけではありませんが、教材研究等で補っていく必要があろうかと思えます。

池田委員 教科書を使って授業をするのであり、教科書で子どもたちが自分で授業を進めていくのではなく、授業がメインになると思います。答申書の書き方として、授業で補う必要があるという書き方が少しおかしいのではないかと感じました。授業がメインであって、教科書はその手段というか、その材料であると思います。なので、この書き方は、いかがなものかと思いました。

真鍋会長 そのように思います。教科書で教えるということです。

市川委員 例年、基礎・基本定着状況調査をしたいと思います。この基礎・基本定着状況調査の結果で、大竹市の児童の実態、学力の定着ということを図っていくという点で、啓林館は適していると捉えて良いでしょうか。

真鍋会長 それはなかなか難しいところがあります。授業の質というのが問題になってくると思えます。しかし、基礎・基本というものがなく、公の調査も全国調査だけですが今回、算数の成績が県平均、全国平均よりも上回っていたことは、結果だけから見ると、今この啓林館の教科書を使っていることも考えられます。一概にはなかなか言えませんし、授業者にもよると思いますが、この教科書を使って学習させたのは事実です。

池田委員 他者では発展学習がたくさん取り入れられてるものもあったのですが、啓林館はどうでしょうか。

真鍋会長 そのあたりの意見はなかったのですが、もしないのであれば、やはり授業者の方で、必要に応じて発展学習をさせていく必要があるかと思えます。

小城委員 啓林館の説明の中に、若手教員にとっては不親切かもというところで、教員

の裁量に任せる点が多いということでした。算数が苦手な教員もおられることもあると思います。そういうときは、教科別に教員を変えるなどということはありませんか。算数に限らずですが。

真鍋会長 基本、大竹市はまだ学級担任制です。学級担任が主としてほとんどの教科の授業をしています。算数についてもほぼ担任が授業をしています。学校によっては補助の教員が入る場合もあるのですが、やはり若手教員が、育つように人材育成の視点で、学年会、校内研修等の研修機会を持ち、力を高めていくことは当然やっていかないといけないと思います。

小城委員 「教員の裁量に任せられる点大きい」これは大事な文言だと思います。そしてそれによって、その学力の差があってもいけないと思います。どの教科もそうですが、そういったフォローの体制というのはしっかりやっていく必要があると思います。

真鍋会長 他者と比較して、この啓林館が非常に簡単すぎて何も書かれていないような極端に簡単なものではないのですが、他者は逆に詳し過ぎます。先程も言ったのですが、そういったところもあるのでちょうどいいと捉える教員もいるだろうし、もう少し書いてくれた方がこのとおりに教えられると感じる教員もいるかもしれません。

小西教育長 若い教員の人材育成の視点、指導力を高めていくというそのあたりの意図があるということですか。

真鍋会長 そうですね。当然それは意図というか、もしそういう教員がいれば、若手に限らず必要かと思います。

中田委員 今までの質問に関連しますが、国語を選ぶときには、問いが多い方が答えが返ってきやすく、きめ細やかに最後に振り返りを東書は詳しくされているということでした。逆に算数の場合はあまり導き過ぎてはいけなく、啓林館の導き方ぐらいの方がちょうど良いということなのでしょうか。

真鍋会長 はい。教科によって学習内容も違うし、学習内容によって学習方法も違ってきます。例えば、説明文の読み方を学習させるために、教材があり、ある程度、中身を学習させる問い、最終的に説明文でどういう構造になっているのか、筆者はなぜこういう構造にしたのか、というところの学習になるので、ある程度詳しい問いになると思います。算数の場合も、結局構造は一緒なので、見方、考え方、法則的な知識、法則、公式、そういったものを事例を通して学び、学んだことを使って今度は習ってない他の事例を解く、その辺りがちょうど良く法則を見つけやすいような、学習方法や問いになっていると思います。本質的に国語と算数の学習の仕方は違います。この啓林館の教科書で、それが足りない、詳し過ぎるというのはないのかと思いました。

小西教育長 質疑を終結します。選定委員会から啓林館ということで推薦されています。採択すべき発行者と、その理由について、委員の発言を求めます。

小城委員 啓林館の教科書をみたときに、各単元の導入部分の内容が簡潔にイメージできるように作っていて、実際その中を学ぶ前に、この単元ではこういったことを学びますという雰囲気を感じることが出来るのはすごく良いと思いました。そして、第6学年の巻末の方の「将来、未来への扉」というところで、将来、他の科目と違って算数はなぜ必要なのかというのがあります。この「未来の扉お仕事

インタビュー」という小学校で学ぶ算数と、これから学ぶ数学が、自分たちの将来にどのように生かされるのか知ることができるのではないかと思います。このような学びは、算数を学ぶ最初にやった方が良いと思います。全体的に見ると、問題自体はそんなに難しいものはないと思いますが、そういった算数というのを身近に感じられる工夫がしっかりあると思うので、啓林館が良いと思います。

中田委員 私も啓林館が良いのではないかと思います。第1学年のワークブックの最初の二次元コードを見ましたが、実際に二次元コードを読み取ったら、カエルが飛び込んだり、ウサギが動いたり、導入からすごく興味を引き、わくわくするような動画だと思いました。音声もついていました。他の動画もどこまで活用するかということになると思いますが、予習したり復習したりという部分では、結構動画が詳しく、その中でも正解の動画だけではなく、よくある間違い動画というものもあって、なかなか面白いなと思いました。

市川委員 先程の説明を聞く中で、啓林館が良いなと思いました。主には二つあります。一つは練習問題数を見ていくと、他者よりも圧倒的に多いのは、啓林館です。啓林館の教科書の中で練習問題をしっかり解いていけるということがいえると思います。練習問題数が多いのは、逆に言うと学力差が広がっていくというデメリットもあるので、やはり、先程から若手教員の話が出てきてますが、しっかりと研修してもらって、指導していく中で、練習問題を充実化させていき、基礎・基本の学力の定着をしっかりと図っていくというのが大切になってくるのではないかと思います。もう一つは、この教科書の中に、解説動画、スマートレクチャーというのですが、この解説動画が他者と比べてすごく多く973コンテンツの動画のマークがあります。これを上手に生かしていくというのが良いのではないかと思います。例えば、今日は学校を休んで家で学び直すという場合、このコンテンツを見て自学ができるというメリットがあると思います。また、学年を超えて、自分はあるときどうも分数が苦手だったという児童がいても、もう1回学び直しがこのコンテンツでできるということは、すごく良いと思いました。これは、指導者側がどのような作業で教科書を扱っていくかということで、学力の部分についても、すごく関連があるのかと思いました。

池田委員 私も啓林館が良いと思います。理由は、先程説明がシンプルであるという話が出たのですが、私はもう少し説明があった方が良くと思い、他者に比べるとシンプルで、説明が少ないと思っていたのですが、会長の話を聞きながら、算数とは考える教科であり、今まで学習したことを使って、新しいものを生み出していく力をつけていくのもとても大事なことだと思うので、そういう意味では全部が全部詳しく書いてあるものであると、児童がそれに頼ってしまって、自分たちで考えることが少なくなってしまう。ただ、先程から出ているように、教員の授業力というものにすごく関わってくるので、これからしっかりとそういう面では力をつけていっていただきたいと思います。

小西教育長 令和6年度大竹市使用小学校用教科用図書について、種目ごとに採択すべき発行者と理由について確認します。算数について、発行者は「啓林館」、理由は、「算数を身近に感じる工夫がなされている」、「単元の導入部分に、非常に動画等を活用し、分かりやすく明記している」という意見が出ました。

次に、理科をお願いします。

真鍋会長 理科は、啓林館を推薦します。理由としてはまず、実験器具の使い方が巻末に示されている教科書が多いですが、使用する単元のページにあるので、実験の時に確認できて使いやすいです。さらに実験器具の使い方や観察の手順が具体的に分かりやすく示されています。他者と比較して、例えば、第6学年の教科書では、「メダカが食べるもの」で池や川の水中の小さな生物とその微生物の採取の仕方というところをまず1ページに非常に詳しく描かれていて、さらに用意する物も詳しく書かれています。その次のページに、顕微鏡の使い方が1ページにわたって示されていて、ここ一つをとっても非常に観察の手順についても詳しく分かりやすく示されているということが言えると思います。続いて、どの単元にも最後に「くらしとリンク」というテーマで学習したことが生活に生かされている場面が出てくるので、発展的に考えることができます。日常生活の関連というのは、これに限らず、意識されていると思いますが、第6学年の「物を燃やすための条件は」や「もしものときに防火扉」や「ロケットに酸素を積んでいる」等、どの単元にも「くらしとリンク」というのがあって、日常生活と科学との関連ということをしごく意識させることになっています。続いて、巻末に「書く」「伝える」「しせつの活用」「理科につながる算数のまど」「ものづくり広場」「理科の見方・考え方」という資料がついています。これは非常に理科の興味関心を高めるにも良いと思います。「理科の見方・考え方」については、第6学年の最後に、漫画を通して、理科で学習した「理科の見方・考え方」が日常生活に役立つ例が確認できるようになっています。「太陽光発電パネルがついた家が増えてきました」というところで、学習した内容を分かりやすく説明しています。そして、「問題をつかもう」が単元に必ずあります。例えば、第6学年の教科書で見つけた「不思議」について、児童の話し合いから問題がいくつか出てきて、話し合いをして、そこから問題を見つけることができるようになっています。また、ポイントとなる言葉についてはマーカーが引かれています。関係があるというところにマーカーが引かれて、ポイントになるということが示されています。最後に、ここは決め手だと思ったことですが、日常生活に関連する科学的事象について「はじめに考えよう」として示して、学習内容を使って単元末に説明させる作りになっています。いわゆる科学的見方・考え方が習得及び活用でき、評価できるということで、第6学年の水溶液の性質のところでは、「はじめに考えよう」で、塩酸を含むトイレ用の洗剤はどうして金属製品には使えないのだろうかという問いがまずあり、水溶液の性質について、実際に実験等を通して学習をして、最後に「もう一度考えよう」というところで、塩酸を含むトイレ用洗剤がどうして金属製品には使えないのだろうかという最初の問いかけをもう一度問いかけて、説明できるか、いわゆるプレテストになっています。単元前のプレテストに対して、最後にポストテストがあるというような作りになっているということで、見方・考え方が、学習によって習得されて、さらに日常生活のもので説明できるか、活用できるかというところを、評価できるようなそういった作りにどの単元もなっているところがすごく良いと思いました。

- 小西教育長 理科について、委員の皆様から質問を受けたいと思います。質疑はありませんか。
- 小城委員 最後の方の「書く」というところで、ノートのまとめ方についてあります。理科は頭で整理していかないとなかなか実験等できないのではないかと思います。どの教科書会社にも、それ専用のノートがありますか。それとも一般に売られているノートで自分達で工夫してノートを作っていくのですか。
- 真鍋会長 ほとんどの教科はそれぞれノートを購入してもらっています。ただ学年によって、みんな同じものを揃えるために専用のノートを揃えて注文することが多いです。道徳については、今使ってる日文は、道徳ノートというのがついていて、それを全員が使うという形になっています。また、教科によっては、ノートではなくワークシートを配って、それをファイルに綴じていくといった方法もあります。
- 市川委員 今の説明の中にも十分入ってると思いますが、やはり理科というのは小学校は大切な段階で、理科が嫌いな子は中学校になったらお手上げになっていくということがあると思います。啓林館は、中にわくわくという言葉を使って、理科好きな子どもにしようという狙いが見えてきます。この説明以外にも、そういうところが見えるものがあれば、少し説明を補足してほしいです。
- 真鍋会長 主には、何気なく日常生活に見ているようなことが実はすごく理科と関連しているのだということや、科学的な考え方を使ってこういうものが作られている等、日常生活で非常に興味関心も高まるし、理科を好きになっていくきっかけになるのではないかなと思います。
- 小西教育長 これは指導する側になると思うのですが、理科の場合、教科書の中に実験等が入ってきます。実験等の安全面について啓林館ではどのような形で明記してあるか説明をお願いします。
- 真鍋会長 実験それぞれに、やはり注意しなければならないことがあります。例えば、第6学年の塩酸で金属を溶かすところでは、注意といったところがあり、保護メガネをかけて換気をしながら実験する、直接手触らない、近くで火を使ってはいけない等、必要に応じて記載がされていました。
- 小西教育長 質疑を終結します。選定委員会から啓林館ということで推薦されています。採択すべき発行者と、その理由について、委員の発言を求めます。
- 市川委員 私は啓林館が良いと思います。理由は二つあります。実際、小・中学校を持ったときに、中学校の理科の先生から「小学校の時に算数ができなければ、理科はお手上げなんです」という言葉を何度も聞きました。そういった点も踏まえてこの啓林館は後ろの枠の中に、算数との関連を図っていくための、理科に繋がる算数の窓というのが設けられているのだと思います。小学校の算数の力がつかないと、中学校に上がると理科が嫌いになっていく一つの大きな要因になってくるので、やはりそのあたりの基礎学力というところで、算数の力をつけていくということがこの中に明記されていくというのがいるのではないかなと思います。その部分ですごく理科に繋がる算数の窓は、それぞれの学年に入っているというのがいいなと思いました。もう一つは、やはり先程、小西教育長からも出たように、いわゆる理科室の実験器具の扱い方などがすごく分かりやすく丁寧に書かれているというところは大事なことで、やはり、実験器具をきちんと安全に使わないと大変なことになりますので、その部分について上手くまとめてい

るなと思いました。また、ノートのとめ方も事例を出しながら示してあるので良いなと思いました。

小城委員 広島市のスタジアムの活用について絵を見て、児童も実際使っているところや施設を運営をしているところが想像しやすいなと思いました。理科に興味を湧かせるような工夫が1番目立っていたと思います。

中田委員 私も啓林館が良いなと思いました。先程の説明にあったように単元のはじめに考えようというページもあり、前に学習したことを思い出して繋げていくというように導いています。最後のまとめのノートというところが手書き感があって、より親近感が持てるというか、こういうふうに書いたらいいんだなと感ずることができ、視覚的にこの写真などもすごく鮮やかで、実験の方法もとても分かりやすいので、啓林館が良いなと思いました。

池田委員 結論から言うと、啓林館が良いと思うのですが、私は最初、東書が良いかなと思っていました。実験器具の使い方が巻末でなくて使用する単元のページにあるのが良く、メリットとして書いてあったのですが、実際に実験器具をその場だけではなく、また今度使う、ページをめくって探すのではなく巻末にまとめてあり、それも1ページずつになっていたので良いなと思ったのですが、先程もあったように安全面で丁寧に書いてあるという説明を聞くと、やはりそちらの方が大事なかなと思いました。そして、東書は、夏休みの自由研究などの取り組み方については丁寧に説明をしていたので、これも児童にやってみようという気持ちを起こさせるかなと思ったのですが、やはり理科は、授業の時間そのものがわくわく、やってみたいなとか、理科が好きにならないとそこの部分に至らないんだなというのを感じました。そういう点では、啓林館が良いのかなと思いました。

小西教育長 令和6年度大竹市使用小学校用教科用図書について、種目ごとに採択すべき発行者と理由について確認します。理科について、発行者は「啓林館」、理由は、「日常生活と科学との関連、将来的に理科好きな児童を育てる内容になっているのではないか」という意見が出ました。

次に、生活をお願いします。

真鍋会長 生活は、東書を推薦します。まず、今年度までも東書の教科書を使っていたのですが、「かつどうべんりてちょう」が本体に組み込まれました。どうも第1学年から紛失しやすいというのがあったのですが、東書だけの変化を考えると、失くさない工夫がされています。また、内容についても1ページに一つのことになっており、健康に安全に暮らそうというところが、分かりやすくはっきり示されていて、非常に整理されていると思いました。他者については、別冊のものが1者、巻末のものが4者あったと思います。次に、「つながる国語」「つながる算数」として、国語や算数と関連つけた表示があり、生活の学習と他教科との関連を意識した指導ができるようになっているということです。他の教科で学習したことを使うことができるようになっています。例えば、教科書「見つけたことを話そう」があります。したことや気持ちを詳しく思い出す、順序を表す言葉を使う、国語の学習で使える、といった言葉も書き添えられています。また、テープで長さを比べる、長さを調べるなど単元のところに、「算数で学習したことが使える

ね」というようなことが書かれています。そして、「動くおもちゃ」「おもちゃ図鑑」のところでは、基本のおもちゃの作り方6種類が紹介されています。さらに児童が何かに見立てて、工夫して創作できるような余地を残した例示がされています。写真で猫やロケット等がありますが、実際作る場面については、それ以外にもいろんなことに見立てることができるという余地を残して、創意工夫を生かせるように工夫がされているように思いました。そして、二次元コードについては非常に充実していると思います。クイズや植物図鑑、秋植えの植物の画像や植物の世話の仕方、その他諸々あります。例えば、指でタッチするとその木の名前が出てきます。活動における禁止事項等というところをタッチして、開けるクイズ形式のものがあり、他者にはないような特徴があるかと思います。先程の「おもちゃ図鑑」についての二次元コードでも、動くおもちゃの様子があって、動く仕組みというのが理解しやすくなっています。

小西教育長 生活について、委員の皆様から質問を受けたいと思います。質疑はありませんか。

市川委員 生活を扱う場合に、私もそうですが、児童がすごく興味を持っているのが飼育单元だと思います。その飼育单元の中身を見ていくと、飼育方法が示されている部分で、いわゆる身近な生き物、コオロギ、カマキリ、ダンゴムシなど、そういうものが取り上げられています。モルモットを扱っているものが3者ありました。このモルモットというのは学校でも今飼ってないし、飼えないし、家でモルモットを飼っているかという、飼ってない方が多いのではないかと思います。そういう生き物に対して、何か話題とかが出ていけば、教えてほしいです。

真鍋会長 特に生き物については出ていないです。

小西教育長 1点よろしいですか。二次元コードが非常に充実しているということなのですが、生活は五感で感じるなどと言いますから、他者と比較したときに、その辺りがより多いということで考えてよろしいですか。

真鍋会長 はい、そのように思います。実際に第1、2学年なので、全て自分のタブレット端末でそれぞれ見てというのは手間がかかり、時間的な制限もあるので教員が映して見せるということが多くなるとは思います。やはり内容的にすごく種類が多いし、中身も单元用に何か工夫されている、そういった内容が多いと思いました。

小西教育長 分かりました。質疑を終結します。選定委員会から東書ということで推薦されています。採択すべき発行者と、その理由について、委員の発言を求めます。

池田委員 私は東書が良いと思います。先程会長さんからもいろいろ説明もあったのですが、ページが非常に工夫されているところが良いと思いました。特に生活は、そういう興味を持たせるというのがすごく大事だと思うので、興味を持てるような工夫がたくさんされていると思いました。また、写真もすごく鮮明で、植物の取り扱いについてもすごく丁寧に扱われているなと思いました。

市川委員 生活ができたというところに立ち戻っていくと、やはり幼保小との関連性がすごく強く、幼稚園保育所から今度は小学校へ上がって、円滑な学びをしていくという部分で、すごく大切な教科になってくると思います。その点、東書の教科書を開くと、学校って楽しいな、行きたいなということが写真からもすごく読み取れるので、すごく東書が良いと思いました。本当に、どこの学校の児童も安心

して小学校生活をスタートできるように大竹市もなっているだろうと思っておりますが、よりそうなっていけば良いなと思いました。

中田委員 私も東書が良いと思いました。写真もすごくリアルですし、季節ごとの春や秋を見つける、校庭で見つけよう、さらに公園でも見つけよう、これがすごくいろいろ街並みなどもあって、すごく興味を引きますし、その中にいる人物も海外の人もいたり、お年寄りもいたり、車椅子の方もいたり、そういった多様性が絵だけでなくその教室の中でもまた見られるのは素晴らしいなと思いました。

小西教育長 令和6年度大竹市使用小学校用教科用図書について、種目ごとに採択すべき発行者と理由について確認します。生活について、発行者は「東書」、理由は「子どもたちにとって非常に興味が持てる工夫がなされている」ということや、「これからの子どもたちの発達段階に応じたキャリアステージについてもしっかりと学びが設定されている」という意見が出ました。

次に、音楽をお願いします。

真鍋会長 音楽は教芸を推薦します。巻末に振り返りのページがあります。各学年で学習した音楽を形づくっている要素、例えば音色、リズムや拍などの要素と、さらに矢印で「これは20ページを見たらいいよ」「48ページに返ってね」等といったことも示されていて、知りたいことをすぐに確認でき、振り返ってまた元に戻れるということが工夫されています。そして、楽器の扱いについて、コラムで手入れの仕方が説明されています。例えば、第1学年には、簡単な絵と説明で、「楽器を使い終わったら水で洗ってホースをよく乾かそう。」また、鍵盤ハーモニカのホースの片付け方が示されており、「振り回したりしないでね。」という注意書きがあります。また、リコーダーを最初に使う第3学年には、「楽器を大切にしよう」と一番下にあります。楽器を清潔に保つためにはマウスピースのところを拭いたり、ガーゼを使ったりという説明は絵と共にされています。さらに、リコーダーは立っての演奏だけでなく、座ったときに吹く姿勢も教芸の方では写真があります。そういった細かいところが配慮されていると思います。単元名とめあてがセットで示されているということで、何を目指して学習するのかが分かりやすくなっています。どの単元もですが、第3学年のリコーダーのところであれば、「リコーダーの響きに親しもう」という単元では、その下に「何をしたらいいのかな」と示してあり「リコーダーの音色に親しんだり演奏のしかたを覚えたりして、綺麗な音で吹くことができるかな。」といっためあてもセットで分かりやすく示されています。さらに、「歌声ルーム」という欄があります。例えば、第4学年には「歌声ルーム1」というのがあって、あくびをするような感じで、首や喉をリラックスさせましょう、背中から頭のとっぺんに向かってまっすぐ息を吐くイメージで歌いましょうというアドバイスが絵と共に示されています。第6学年では変声期の歌い方も示されています。それから最後、リコーダーのことですが、タンギングと息の使い方について、教芸は非常に詳しく説明がされています。第3学年では、1ページ全てを使って「トゥトゥ」といった息の吹き方というのが詳しく説明されています。そういう細かい配慮があるというところもあり、教芸を推薦します。

小西教育長 音楽について、委員の皆様から質問を受けたいと思います。質疑はありませ

んか。

国歌についての扱いはどのようになっていますか。

真鍋会長 国歌については、どの学年も一番最後の裏表紙に見開きで「君が代」国歌について大切にしようということでの国歌の説明があります。どういったところで歌われるかということについて、オリンピック、パラリンピック等で歌われていると示されています。

小西教育長 質疑を終結します。選定委員会から教芸ということで推薦されています。採択すべき発行者と、その理由について、委員の発言を求めます。

市川委員 教芸が良いと思いました。その理由は、やはり子ども一人ひとりが自ら楽しく音楽活動に取り組むという点で優れていると思います。特にリコーダーの部分が、すごく丁寧に詳しく載せてあるということが良いと思いました。また、音楽というのは、教科はもちろんのこと、入学式や卒業式、また、校内音楽会、2分の1成人式など、すごく学校行事と深く関わりがある教科ではないかなと思います。教科書を通して、全校で楽しく演奏できるように編曲していて、国際的な歌や、また、日本古来の童謡というのも取り扱っているし、取り組みやすさという点では、教芸がふさわしいのではないかと思います。英語活動との関連からいっても国際理解教育という部分でも、ずいぶん英語歌詞を取り扱っているし、表紙も国際色豊かな表紙になっているということで良いと思いました。

小城委員 教芸の方が見やすいですし、音楽、芸術系のものというのは、見た目の印象も大事だと思います。構成や色の配色、道具の使い方にしても、自分でもしっかりそれにならって、手をかけていったら、そういったことができるんだなという実感を味わえるのがこちらの方かなと思いました。

小西教育長 令和6年度大竹市使用小学校用教科用図書について、種目ごとに採択すべき発行者と理由について確認します。音楽について、発行者は「教芸」、理由は、「児童が音楽活動を存分に楽しむことができる工夫がされている」という意見が出ました。

次に、図画工作をお願いします。

真鍋会長 図画工作は開隆堂を推薦します。育てたい資質能力を3つのキャラクター、くふうさん(知識・技能)、ひらめきさん(思考・判断・表現力)、こころさん(学びに向かう力、人間性など)で児童に親しみやすく示されています。その説明は、第5、6学年の上でも大きく説明があります。他者は、同様のことが開隆堂と比べると非常に小さくて、逆に言うと開隆堂の方が大きくて見開きで分かりやすく、さらに、第5、6学年の上に「ビー玉大冒険」というのがありますが、学習のめあての中で重点的につけたい力の下に線が引いてあります。学習のめあてで三つ、くふうさんとひらめきさんとこころさんがありますが、こころさんのところで「友達と協力して作ることを楽しむ。」と赤字で線が引いてあります。他にも、こころさんが出てきて、「それぞれ作ったことを合わせると思いがけないことが面白いね」と吹き出しで1回児童に意識をさせ直すといったところがあり、さらに右下の振り返りのところで、「友達と協力してどんなコースができたのかな」ということで、学習のめあての途中での確認、最後の振り返りという

ことで整合性を持って、めあてから振り返りまで学習ができるように工夫がされています。次に、導入の二次元コードは、大体見開きの左下にあります。どれを見ても内容の動画、教材、学習内容の関心を非常に高めるような、これを見たら、ちょっとやってみようという思いを子どもに抱かせるような内容が示されているものであると思いました。そして、次に「つながる造形美術館を楽しもう」という単元が第5、6学年の上にあります。見開き2ページに美術館を楽しもうというのがあります。美術館の活用の仕方であるとか、利用の際の注意事項などを分かりやすく示しています。大竹市にも美術館ができましたので、見学をする際に活用できるのではないかと考えます。次に、巻末の「学びの資料」では、道具の使い方を写真と絵を効果的に使い分けて分かりやすく示しています。例えば第5、6学年の上でペンチの使い方というのがあります。あえて絵で切り方や曲げ方などを表していると解釈しました。他者は写真を使っているばかりに、かえって分かりづらく、こちらの絵で、切り方などを毎回説明した方が非常に分かりやすく感じました。次に、単元で使用する準備物が見開きで、どの単元もそうですが、分かりやすく示されています。選定委員の中に保護者の方がいらっしゃいますが、特に低学年であると、準備物というのは児童だけではなかなかできないところもあるので、非常にありがたいというような意見がありました。次に、児童の作品紹介が他者と比べると数は少ないのですが、単調にならないように、大きさや見せ方、あるいは構成などが見やすいような工夫をしていると感じました。その他の作品は二次元コードで紹介されているものもあります。最後に、作品を作ったという児童の写真の表情です。生き生きとしています。笑顔であったり、真剣さであったり、そういった作業をする意欲づけになると。他者の中には、マスクをつけて作っているものもあり、児童の表情というところでも違いがあると感じました。

小西教育長 図画工作について、委員の皆様から質問を受けたいと思います。質疑はありませんか。

委員一同 なし。

小西教育長 質疑を終結します。選定委員会から開隆堂ということで推薦されています。採択すべき発行者と、その理由について、委員の発言を求めます。

小城委員 先程の生活や図画工作というのは感性を引き立たせる教科です。しっかりとタブレットを活用して、第5、6学年の上にあるようにタブレット端末の活用が、今、大人として、親として見ても面白そうな内容だと思いました。どの単元についてもタブレットを使っていて、しっかりそれを活用したら、いろいろなイメージも湧くのではないかと思いますので、開隆堂が良いと思いました。

中田委員 私も開隆堂が良いと思いました。すごく単調でなく、レイアウトに動きがある感じなので立体感が増し、すごく視覚的にも作りやすく、より実物に近い感じなので開隆堂がいいと思います。

市川委員 開隆堂の良いところは、工作の単元がとても多いということです。しかも中身がすごく作ってみたいなどと考えながら、わくわくしながら自分の工作にしていってということが作業内容からも読み取れるという部分で、開隆堂は良い

と思いました。また、系統性というところで考えると、彫刻刀の使い方についても第3、4学年で基本的な部分を学習して、今度は高学年でより版画彫刻等の面白さに触れていくという部分で良いと思ったし、また彫刻刀の扱い方が学びの資料の中に、丁寧に示してあるという部分で、安全指導をすごく入れているという部分もやりやすいし、扱いやすいと思いました。

池田委員 開隆堂が良いと思います。2点あります。1点目は道具の使い方が丁寧に示されているという点と、2点目は、絵や写真がすごく分かりやすく鮮やかで、子どもたちが見た瞬間にやってみたいなという意欲を持たせるような工夫がされていると思いました。

小西教育長 令和6年度大竹市使用小学校用教科用図書について、種目ごとに採択すべき発行者と理由について確認します。図画工作について、発行者は「開隆堂」、理由は、「絵や写真等がふんだんに使われ、大変レイアウトに工夫があり、児童の感性を高めていくことに繋がっている」、「タブレットをふんだんに活用しており、イメージが湧きやすいものになっている」という意見が出ました。

次に、家庭をお願いします。

真鍋会長 家庭は東書を推薦します。まず、家庭科の見方・考え方を「家庭科の窓」として設定し、全ての大題材のタイトル横に視点を示すとともに、キャラクターの吹き出しによって、見方・考え方に気付くための課題を投げかけているということで、見方・考え方を「家庭科の窓」というふうに、それぞれ単元の最初の部分に、例えば54ページであれば4項目ありますが、そのうちの2項目が特にここで力を入れているように示されていて、家のキャラクターの吹き出しで、課題を投げかけているというような作りにどれもなっています。これは非常に学習に入りやすいと考えます。次に、二次元コードによる調理等の動画がありますが、調理一つ取ってみても適度な内容と時間によって分かりやすく作られています。他者は、例えば調理で切る、見る等、作業ごとに細切れに示されています。どちらがいいかは、好き好きかもしれませんが、こちらの方が一連の作業を1回で示しているので分かりやすく、扱いやすいと思いました。次に、夏休みにも家庭科の学習を生かした生活ができるように、1学期に学習した内容でヒントを与え、発展的に学習に取り組めるように示しています。例えば、「夏休みわくわくチャレンジ」ということで、いくつか裁縫や、調理について示されています。夏休みに家庭でやってみるということが大事になってくると思います。また、第6学年にも、「わくわくチャレンジ枕カバーを作ろう」や「野菜いためを作ろう」というのが示されています。次に、ミシンや裁縫で使う道具の名称や使い方を分かりやすく示していると思います。例えば、「ミシンにトライ。ミシンを使ってみよう」で、ミシンの各部の名前、使い方が詳しく示されていて、確認をするようになっています。袋やカバーなどを作る単元がありますが、そこでは、巻末を見れば良いので使いやすいです。ミシンの使い方にしても、さらにもう1回まとめてどう使うかを示しているので、こちらも調べられるという作りになっていて分かりやすいと思います。単元名については、この単元で何を学習するのが非常に分かりやすい。例えば、「一針に心を込めて」や「ゆでる調理でおいしさ発見」

などというのがあります。他者は、あえて横文字を使って、ソーイング、クッキングなどを単元名にしています。子どもにとってはあまりそういう言葉は今まで聞いたことないと思います。こだわりがあるのかなと思いました。最後、調理器具等の紹介がまとめられていて、使い方の説明は実際の使用場面で示してあるということが分かりやすいです。例えば、量る、加熱する、洗う、そういったところでどういう道具や、器具を使うのかその使い方の説明や実際の使用場面が示されています。例えば、「米と水の測り方」で計量カップの使い方や、量りの使い方などが示されています。以上のことから、東書を推薦します。

小西教育長 家庭について、委員の皆様から質問を受けたいと思います。質疑はありませんか。

委員一同 なし。

小西教育長 質疑を終結します。選定委員会から東書ということで推薦されています。採択すべき発行者と、その理由について、委員の発言を求めます。

池田委員 東書が良いと思います。実はどちらもめあてがしっかりと整理されていてふり返りもあって、道具の写真もきちんと全部載せられています。東書の方が、丁寧に子どもたちに分かりやすく、写真の提示がしてあると思いました。そして、お芋を茹がく調理がありましたが、他者の方は皮付きのまま最後に冷めてから皮をむくようになっていたので、これまでの調理と違うなと思いました。

中田委員 「いつも確かめよう。実習で安全に気をつけよう」というところで、いろいろ明記されています。地震が起きた時はどうしましょうなどあります。それから、お米を炊くところで「日々の備え」というのがあります。そこで、こういうふうには炊飯器やガスだけじゃなく、いろいろ違った形でもお米が炊けますよというように提示しているのが良いと思いました。

市川委員 私も東書が良いと思います。今説明があった以外に三つ程あります。東書は、学習内容と関連した図、イラスト、写真等の示し方が豊富で効果的なのではないかなと思いました。例えば、身の回りを整えるという部分で、開隆堂は一つの机がぐしゃっとなっていて、これについて考えましょうというふうになっています。それに対して東書の場合は、お姉さんがいて、お姉さんの机は綺麗になっているのに対して、自分の机はぐちゃぐちゃになっているので比較しやすい。二つあるとこういうふうにしたら綺麗になるのかというのは分かりやすいので東書の方が写真も効果的な示し方をしているのではないかと思います。また写真付きで、雑巾の絞り方を示してあるというのも、小学校の段階で雑巾をどのように絞っていくかということが具体的に分かって良いのではないかと思います。2点目は、ご飯の炊き方です。東書の方が早く扱っていますが、実際、第5学年でよく野外活動でご飯を炊くのですが、家庭科でご飯を炊いて、野外活動へ行くと、より関連性が出てきます。また、今、災害ということを考えても、ご飯の炊き方が大切になってくるのかなと思いました。3点目に、デジタルコンテンツの中に、玉結びや包丁の持ち方、布の裁ち方などが入っています。左利き用も示されているということで、これも他者にはない、良いところだと思いました。

小西教育長 令和6年度大竹市使用小学校用教科用図書について、種目ごとに採択すべき発

行者と理由について確認します。家庭について、発行者は「東書」、理由は、「単元名から子ども達が何を学ぶのか、どう活動するかが非常に分かりやすくなっている」、「デジタルコンテンツの中に左利きの子どもたちへの配慮がしっかりとなされている」という意見が出ました。

次に、保健をお願いします。

真鍋会長 保健は東書を推薦します。まず、全ての単元の学習の進め方が「1 気づく・見つける」「2 調べる・解決する」「3 深める・伝える」「4 まとめる・生かす」の四つのステップで非常に明確にどの単元も示されていて、分かりやすいかと考えます。次に「3 深める・伝える」のところでは、学んだ知識を活用して、事例を考えて説明させる、思考・判断・表現力を養うような作りになっていると思います。例えば、第5、6学年に「喫煙の害と健康」というのがあります。「あなたは下の写真のような表示を見たことがありますか。どんな意味がありますか。」というところで、児童が「このような表示をしているのはなぜかな」という問いかけがあります。最後には、「深める・伝える」の「ステップ1で挙げたような喫煙を禁止したり制限したりする場所では、なぜその対策をとっているのでしょうか？今日の授業で学んだことも踏まえて説明できるようにまとめましょう。他の人の意見を聞いて考えたことやわかったことを書きましょう。」というように、さらにこの考えを広げたり深めたりというような活動が設定されています。最初に問いがあって、最後に学習したことを使ってもう1回説明させるという作りになっている。他者であると、例えば、「喫煙について今から気を付けたいことをそれぞれ理由とともに挙げてみましょう。」というような問いです。東書は深める、考えさせる、表現させる、そういったところがすごく意識されていると思います。次に、現実的で具体的に考えさせる問いが多いということで、「生活習慣病の予防」では、「気づく・見つける」のところで、生活習慣の絵があり、ステップ1で印をつけた生活行動のうち、「これからも続けてしまいそうな行動を選びましょう。そしてその行動を続けられないための対処を考え話し合しましょう。続けてしまいそうな行動。続けられないための対策。さらに他人の意見を聞いて考えたことわかったことを書きましょう。」というところがあります。他者であると、例えば、「健康に良い生活習慣としてあなたがこれから特に実行したいことを、運動について1つ。それ以外に1つ挙げてみましょう。」という少し表面的な問いかと思えます。東書の方は掘り下げた問いがあります。「まだ続けてしまいそうな行動はないか、それを続けられない方法を考えなさい、他の人の意見も聞いてもっと深く考えなさい」、そういった作りになっています。次に、記述できる箇所が豊富で、単元の導入に書き込んだ「メモ」の記述と、最後の「まとめる・生かす」の記述を比較することができるなど、児童の考えの変化を読み取ることができるように工夫されています。作業の最初でメモというところがありますが、そこで最初に思ったこと考えたことを書いて、最後のところで比較ができる、「まとめる・生かす」で考えの変化、結局どんなことを学んだのかということをも自分でも評価できるし、教員もそこを見て評価できると考えます。最後ですが、二次元コードからの資料が充実しています。視聴覚に訴え、学習内容をより深く

理解できるようになっています。例えば、受動喫煙の実験映像が二次元コードであります。これは非常にカラフルで色がついた変化というのが分かるような映像があります。他者は、二次元コードを開くと、ワークシートや、他のところのリンクがあって統計や文章の資料がたくさん出るといったことがあります。東書については、この教科書で学ぶためのこの動画というのが作られており、そういう手間がかかっていると考えました。

小西教育長 保健について、委員の皆様から質問を受けたいと思います。質疑はありませんか。

委員一同 なし。

小西教育長 質疑を終結します。選定委員会から東書ということで推薦されています。採択すべき発行者と、その理由について、委員の発言を求めます。

市川委員 東書の良さですが、この学習の過程の部分が主体的に取り組む工夫がなされています。自己課題を見つけるための手立てとしては、メモの活用を図りながら調べていく、解決していく、という段階に入っていくところが、一人ひとりの思考力、判断力、表現力の育成に繋がっていると思いました。

池田委員 私も東書が良いと思います。保健で学んだことは、これからどうしていくかがとても大事だと思います。その意味では、東書のまとめる・生かすという部分の発問に対して書かせるようになっているので、そこをまた、お互いに出し合いながら高められていけば良いのではないかと思います。

小西教育長 令和6年度大竹市使用小学校用教科用図書について、種目ごとに採択すべき発行者と理由について確認します。保健について、発行者は「東書」、理由は、「学んだことをこれからどう生かしていくか、その学びの道筋がしっかりと配慮されて工夫している」という意見が出ました。

次に、英語をお願いします。

真鍋会長 英語は、開隆堂を推薦します。様々な議論があったのですが、総合的に考えると開隆堂が大竹市の児童にとって良いのではないかと思います。その視点として、まず、一つ目はCAN-DOリストです。これは、文部科学省が、これを作成をし、学習させていくことを進めているものです。CAN-DOリストがあるかどうか、あればあるものについてはどのような内容か、そういったところを協議しました。開隆堂については、第5・6学年の教科書ともに、巻末にCAN-DOリストがCAN-DOチェックとして、単元ごとの表で示されています。CAN-DOリストは「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」の4技能ごとに「わかる」、「使える」の視点で「自分の力でできる」、「先生や友達をサポートがあればできる」、「もう少し」の3段階チェックになっています。その3段階チェックのところを色を塗って、頑張ったことや、次のレッスンで頑張りたいことをコメントを書いていくといった作りになっています。非常に使いやすいCAN-DOリスト、CAN-DOチェックだと考えました。他者でいえば、別冊の終わりにCAN-DOの木というものがあり、できたらそこに色を塗るようになってるのですが、色を塗る面積がすごく大きく、これに時間がかかったり、1段階評価でできたかできなかったかだけだったりします。先程の開隆堂は評価が3段階

あるので、幅があり良いのではないかと思います。また、他者の別冊の「Word Book」では、4技能5領域で各学年、各单元ごとに分かれてはいますが、リストの内容が理解しにくい、単元が混在していて分かりづらい示し方をしています。それとともに、CAN-DOリストが非常に煩雑で、何をどうチェックしたらいいのか分かりづらいものや、1者については、CAN-DOリストがありません。その他、到達目標の内容から自己評価するのが非常に難しいCAN-DOリストもありました。例えば、「第6学年で簡単な語句や表現を見つけたり、その意味を捉えたりすることができる。」これを、「できた」、「できなかった」で評価するということは、児童からしたらどう評価したらいいのか分かりづらいと思いました。CAN-DOリスト、CAN-DOチェックがあり、また、その中身についても児童が自己評価しやすいものであるため、開隆堂が良いのではないかということになりました。

次に、発行者によって名称は違いますが、別冊で「Word Book」が各学年1冊あります。カラーのイラストとともに提示されており、ジャンル別にまとめられています。ジャンルごとに二次元コードがあり発音を聞くことができます。他者は、別冊がないものが2者ありました。別冊ではなく巻末についているものもありますが、単元学習中にいちいち巻末を見て言葉を探そうとするのは非常に難しいため、別冊の方が使いやすいと思います。その他に、学習のしやすさというところで、見開き2ページで4技能5領域の学習活動がバランスよくできるように構成されているところがあります。例えば、第6学年では、ここでしたいことを伝え合おうということで、「見て考える」「カードを選んで話す」「聞いて考える」「伝えあう」というものがあり、ゲームをしながら伝え合って、下半分には、「聞いて文を指でなぞる。」というものもあり、最後になぞり書きの部分があります。そういった、話す、書く、読むという活動がバランスよく入っているのは、開隆堂です。他者は、書くところが多すぎて児童も困惑し、小学校の時から外国語の英語が嫌いになってしまう可能性があるのではないかと懸念されるようなものもありました。逆に、ただ単に線で結ぶだけとか、簡単すぎる教科書もあったので、開隆堂がその中ではバランスが取れていると考えました。その次に、書く活動が適度に示されていて、聞く、話す、書くの後に音声を聞きながら文を指で追う活動を経て書く活動が取り入れてあり、無理なく書けるような流れとなっています。4線の幅が非常に書きやすい大きさで、目的に合わせて英語で示されています。次に、「話す」「聞く」の言語活動が多く設定されており、ページの左下に「Small Talk」が示されており、本单元に関連した話題のやり取りをさせることで、既習表現の定着を図ったり、会話の幅を広げたりすることが出来るようになっていきます。最後に、第6学年に「Classroom English」として「授業で使える20の表現」が巻頭に見開きで示してあり、日常的に授業等で使えるというところもあり開隆堂を推薦します。

小西教育長 英語について、委員の皆様から質問を受けたいと思います。質疑はありませんか。

池田委員 中学校の英語の教科書との関連はあるのでしょうか、それとも全く関係はな

いのでしょうか。

真鍋会長 開隆堂を選ぶと、中学校と違う発行者になります。現在、小学校では東書を使っています。同じ発行者だと関連で学習内容や仕方等、つながりがあるのだと思うのですが、書く量が多く、全部を勉強しようと思ったら、決められた時間内でこなすのに一生懸命になってしまいます。先程説明したように、中学校に向けて、英語嫌いになるのではないかという懸念があります。中学校との繋がりというところまでは、議論には出ませんでした。今の子ども達にとって、これがいいのではないかということで、開隆堂を推薦しています。

小城委員 小学校第5、6学年の授業で辞書は使うのですか。

真鍋会長 辞書等は使っていませんが、別冊の「Word Book」を辞書の代わりとして使っています。非常に使いやすいものと考えています。

小城委員 英語の授業の前に、第3、4学年のローマ字を学習すると思うのですが、その時に、英語の文字の書き順などは、そこで学んだ前提で学習を進めるのですか。

真鍋会長 第3学年からローマ字の読み書きを学習し、ローマ字で名前を書けるようになります。第3、4学年の外国語活動は、読む、聞くが中心ですが、第5学年で外国語科が始まったら、書く学習につながっていきます。

小西教育長 そもそも英語の学習のスタートが英語に親しむということから始まっており、もともと中学校からの学習だったものが、小学校段階に下りてきているということでもありますので、そのあたりも考えていただけたらと思います。

質疑を終結します。選定委員会から開隆堂という事で推薦されています。採択すべき発行者と、その理由について、委員の発言を求めます。

市川委員 開隆堂を推薦する理由として、児童の課題からスタートして開隆堂にしたという説明であったので、そこが一番いいのではないかと思いました。特に開隆堂の特色としては、聞く、話すの活動を主にしながら、無理なく楽しく書けるようになっていくという工夫がされていて良いのではないかなと思いました。また、鮮明で教科書の表紙を見ただけで何かわくわくするので、児童も、これから英語を楽しく学習出来るのではないかなと思いました。それともう1つ気に入ったのは、「Word Book」の活用です。「Word Book」を使って児童が自ら学んでいくと、すごい力がついてくるのではないかなと思いました。私達もそうなのですが、英語で話をするのが苦手です。「Word Book」を使って片言の言葉からスタートしていく中で楽しくなっていくという学習ができるのではないかなと思いました。

池田委員 私も開隆堂がいいと思いました。一つは、先ほどの説明の中であった「Word Book」を持ち、これを活用出来ることです。辞書の代わりとして、児童が調べたり、分からなかったら、それを見るというような工夫がされていることが良いと思いました。それから、書く活動について、私は、書くことが多い方が良いのかと思っていたのですが、英語離れにならないためには、適度に書く活動があることがとても大切なことだと思いました。第3、4学年の外国語活動で楽しくコミュニケーションが出来るように学習してきたものが、開隆堂の教科書が入ってくることによって、すぐに書く学習にいかないのか、ちょっと抵抗感

がある子ども達にとっても、しっかりと話すという部分を重視して取り組んでいけることがいいのではないかと思います。

中田委員　私も書くを主体に考えて中学校とのつながりや英語といえば、ニューホライズンという固定的な考えがありましたが、今の説明で話すことを重視するのであれば、すんなり児童に入ってきてやすい開隆堂が良いと思いました。

小西教育長　令和6年度大竹市使用小学校用教科用図書について、種目ごとに採択すべき発行者と理由について確認します。英語について、発行者は、「開隆堂」、理由は「Word Bookの活用の広がり考えられるということ」、「聞く、話すを重視して、児童が英語に親しみながら力をつけていける」という意見が出ました。

次に道徳をお願いします。

真鍋会長　道徳は、日文を推薦します。まず、全教材文について、道徳ノートがあります。これがあるのは、日文だけです。道徳ノートを使って、自分の考えを書いて確認できます。問いを固定されて記入されておらず、指導者の児童観や指導観などによる裁量を生かせるように改良されているところも良いと考えました。次に、いじめの4層構造では、さらに助ける大人のことが書かれていることも良いです。第4学年の教科書では、いじめる、いじめられる、はやし立てる、傍観者、そして、何とかしようとする子、その周りの大人という内容がありました。なくそういじめというところで、いじめも道徳教育の中で扱うように示されているのですが、周りの大人まで書かれているという配慮があるというところが良いです。次に、各教材文に中心発問を含む二つの発問が掲載されています。中心発問は、登場人物の価値観が高まった場面での、深く考えるための問いになっています。他の基本発問は、指導者の児童観や指導観等による裁量が生かせるようになっていきます。例えば、第4学年の勤労では、「僕がさっきより丁寧に草を取り始めたのは、どんなことに気づいたからかな」というような、登場人物が何か「はっと」気づいたこと、価値観が高まったところを深めていくような授業構成になっています。それから、各教材文の冒頭に、あらすじの一部や登場人物が示されています。まずは、教材文の中身を理解しないといけないので、それが内容理解の助けになっています。また、キャラクターの冒頭での問いが、学習する価値への導入となっており、その価値についてブレずに考えさせることの助けにもなっています。それから、全ての教材文に二次元コードの資料がついています。朗読やワークシート、心情メーターやクイズ、相談窓口等そのようなものも充実しています。例えば第4学年では、関連する資料として、自転車の正しい乗り方の警視庁の資料が載っていたり、また、郷土愛のところでは、ある地方の火祭りの動画があったりと非常に工夫がなされています。そういった理由で日文を推薦いたします。

小西教育長　道徳について、委員の皆様から質問を受けたいと思います。質疑はありませんか。

小城委員　道徳の授業は、他の科目に比べて、心情や感情が表に出てくる教科ですが、教える先生方によってそういった差異がないような工夫はありますか。

真鍋会長 基本的に道徳の授業の鉄則として、価値観を押し付けてはいけないということがあります。ゴールに持っていくために、どうするか引き出し、深め、様々な子どもの考えを共有して、多様な考え方に共感したり、自分の現在や過去の言動と、授業の中で話し合った価値観とを照らし合わせて反省したりするために、押し付けるということはしてはいけないと思います。「こうなさい」、「ああなさい」となると、道徳というよりも特別活動等の違う領域になってきます。

池田委員 道徳でいじめの問題を取り扱うと思うのですが、先程も少し説明があった、日文のいじめの部分の取り扱いについて、何か特色が他者と違いがあるのですか。

真鍋会長 あくまでも、いじめというのはいじめとして、直接に指導する場合は特別活動になっていかないとなかなか難しいと思うのですが、道徳としての扱いとして、いじめは、具体的な教材として扱って、抽象的な公正公平とはこういうことなんだということを学ばせるための材料として道徳では使っています。

池田委員 他者との取り扱いの違いはあるのでしょうか。例えば、SNSが問題になっており、それを取り扱っている会社もあったのですが、日文にはなかった気がします。

真鍋会長 そういった違いはあります。

小西教育長 質疑を終結します。選定委員会から日文という事で推薦されています。採択すべき発行者と、その理由について、委員の発言を求めます。

池田委員 先程の説明で、道徳ノートは、すごく大切だと思いました。児童にとっても大切ですし、先生たちにとっても、このノートを見ることによって児童の心情の移り変わりであったりとか、どのように捉えているかということが分かると思うので、この道徳ノートがあるということが、私は、日文の一番の特色だと思いました。

小城委員 私も道徳ノートがあるということと、先程の説明の中に児童の考えを引き出して、それを文字に起こして、児童も先生も見ることができるようにするということが一番いいと思います。

市川委員 道徳ノートで自分の考えを書くということで、自己の内面を知り、自己肯定感を高めていく事ができるということと、指導者側もこれを読んだときに、それぞれ個々の児童の内面が分かってくるという部分で大切だと思いました。また、教材文を扱う中で、日文は、自分の考えとともに、お互いの良さを大切に認め合うという人間関係に触れているという点でいいと思いました。新採の先生方にとって、道徳をどう扱うのかという部分では、考えてみよう、見つめよう、生かそうというものが示してあるというのは、すごくありがたいと思います。

中田委員 私も日文が良いと思います。道徳ノートがあることと、教材の生きる力のところに力強さがあるということ、他者は問いかけが多すぎるため意見の固定化がされてしまうので、色々な意見や思いが出てきにくいと思うので日文がいいと思います。

小西教育長 令和6年度大竹市使用小学校用教科用図書について、種目ごとに採択すべき発行者と理由について確認します。道徳について、発行者は、「日文」、理由

は「道徳ノートを活用することによって、児童の考えを、教師側は知ることができ、児童自身は、内面を知ることができるということ」、「成長につながっていくということでこの道徳ノートがいいのではないか」という意見が出ました。

全13種目の審議が終了をいたしました。本件を採決いたします。令和6年度、大竹市使用小学校用教科用図書について国語は東書、書写は東書、社会は東書、地図は帝国、算数は啓林館、理科は啓林館、生活は東書、音楽は教芸、図画工作は開隆堂、家庭は東書、保健は東書、英語は開隆堂、道徳は日文を採択することとするに異議はありませんか。

委員一同 異議なし。

小西教育長 異議なしと認めます。よって、本件は原案のとおり可決されました。

議案第19号 令和6年度大竹市使用特別支援学級用教科用図書の採択について

小西教育長 日程第3「議案第19号 令和6年度大竹市使用特別支援学級用教科用図書の採択について」を議題とします。事務局から説明を求めます。

事務局 特別支援学級で使用する教科用図書のうち、学校教育法附則第9条の規定により、図書の選定について、当該児童生徒の教育課程において検定教科書を使用することが適当でない場合は、文部科学省著作教科書や一般図書といったほかに適切な教科用図書を使用することができるとされています。

このいわゆる9条図書について、各学校では学校長を中心に教頭、特別支援学級の担任、特別支援教育コーディネーターによる選定会議を設置し、児童生徒の実態に合わせた適切な教科書の選定を個別に行いました。

各学校が選定した教科書を使用するためには、使用する前年度の8月31日までに教育委員会において採択する事とされているため、各校から教育委員会へ提出された選定教科書の報告に基づき、「令和6年度使用特別支援学級用教科用図書」の一覧を作成し、議案として提出しました。

小西教育長 これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

池田委員 中学校の特別支援学級用教科用図書の使用に当たっては、小学校の時に使っていた教科書との関連性等どのようにしていますか。

事務局 中学校第1学年分については、小学校第6学年の担任の先生と中学校の先生が連携をして、中学校の選定委員会で選定しています。中学校第2・3学年については、それまでにどのような教科書を使ってきたか踏まえた上で決定しています。

小西教育長 特別支援教育については、個に応じた指導になるため中学校側は小学校との連携はよりとるようにしています。

小西教育長 他に質疑はありませんか。

委員一同 なし。

小西教育長 質疑なしと認めます。これをもって質疑を終結します。本件を採決します。本件は原案のとおり可決することに異議ありませんか。

委員一同 異議なし。

小西教育長 異議なしと認めます。よって、本件は原案のとおり可決されました。
以上をもって、本日の日程は全て終了しました。
なお、本日の会議の議事録を作成するに当たり、各議題の審議内容について、
字句、数字、その他の整理を要するものについては、その整理を会議の議長に委
任されたいと思います。異議ありませんか。

委員一同 異議なし。

小西教育長 異議なしと認めます。よって、字句、数字、その他の整理は、議長である教育
長で行います。

これにて、令和5年第8回大竹市教育委員会会議を閉会します。

【閉会時刻 13時20分】

.....